

令和6年度第2回庄原市「学びの变革」推進協議会

令和6年10月7日（月） 庄原市立東城小学校

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図る」ことを目的に、研修会を行いました。

【研究授業】教科等：第4学年 算数科「およその数の表し方と使い方を調べよう

～概数を生活の中で使いこなそう～」

授業者：庄原市立東城小学校 教諭 松園 聡

【事後協議】「『本質的な問い』による授業改善に向けて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 福原 理恵



【グループ協議】

- 授業の始めに、指導者が前時の児童の振り返りから優れた学び方等を紹介し、価値付けることによって、児童の自己調整の力が育成されていた。
- 学習計画表や、買い物など日常生活と関連付けた学びのコーナー（アクティブコーナー）、豊富な種類のプリント、タブレットで視聴できる動画等、主体的に学習に取り組むための学習環境が整っていた。
- 一人で困っている（つまづいている）児童への支援として、指導者だけでなく、サポーター役の児童が教えるなど、児童同士のつながりを増やすとよい。
- 自由進度学習を行うのが難しい単元もある。その単元で児童に付けたい力を明確にし、その達成のために有効な学習形態は何か考え、選択する必要がある。

【講評・講話】「『学びの变革』の“深化”

～全ての学校における自律的・組織的な校内研修の確立、授業の質的向上に向けて～

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 関根 紗絵

広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 砂走 愛

【講評より】

- 児童生徒に委ねるためには、指導者の発言の精選とそのタイミングが大切である。また、その単元で児童生徒は何を経験し、何を学ぶのかなど、指導者がねらいを明確にすることが大切である。

【講話より】

- 「学びの变革」推進担当教員の役割を自覚し、自校で作成した研究推進計画に基づいた取組を学校全体でやり切ることが大切である。また、授業参観や校内研修等では、児童生徒の具体的な姿を取り上げ、授業改善につなげるために、「広島版『学びの变革』授業参観シート（令和6年度 ver.）」の活用も有効である。



【参加者の感想等】

- ◆個別学習でも一斉学習でも、児童の実態を把握し、目標を達成させるために必要な支援を考えることは同じなので、実態把握と実態に合わせた支援ができていないかの確認を学校全体で大切にしたいと思った。
- ◆子供たちに委ねて学習を進めるためには、環境づくり、実態把握、教師のファシリテート力が大切だと学んだ。まずは、ファシリテート力を活用したい。
- ◆自由進度学習について、所属校でできる内容・範囲で、児童の実態に合わせて取り入れていきたいと思った。